

2/27午後

ロシア科学者の「侵攻反対」

ロシアの科学者と科学ジャーナリストが、ロシアによるウクライナ侵攻に「断固として反対を表明する」とした公開書簡を24日付で発表しました。25日までに約200人が署名しています。

ロシアの科学紙のウェブサイトに掲載。ロシア科学アカデミーの会員などが名を連ねています。侵攻が「甚大な人的犠牲」をもたらすと強調し、ウクライナに向かたあらゆる軍事行動の即刻停止、ウクライナ国家の主権と

領土保全の尊重を要求しています。

書簡は「ウクライナがわが国の安全保障に脅威ではないことは明白だ」とし、今回の戦争は「不公平で、はっきり言って無意味だ」「欧洲で新たな戦争を引き起こした責任は、ひとえにロシアにある」と批判しています。

書簡は、「普通に仕事ができなくなる」と指摘。「ロシアが世界から孤立してしまえば、わが国は文化史に触れ、プーチン政権が「地政的にも技術的にもいつそう衰退する」と懸念を示しました。

とは、父祖の記憶を裏切るものだ」と指摘しています。

ウクライナを「独立国家として尊重する」とともに、西国間の

「関係における問題は平和的に解決できる」と確信する」と表明。

「戦争を起さない」として、ロシアは国際的に孤立しないうちに、国家の状態に自らを追い込んだ」と指摘しました。

書簡は、戦争の結果、科学者として「普通に仕事ができなくなる」と指摘。「ロシアが世界から孤立してしまえば、わが国は文化史に触れ、プーチン政権が「地政的にも技術的にもいつそう衰退する」と懸念を示しました。

公開書簡 2千人署名